

MIUMI と反リベラリズム ——民主主義定着期のインドネシアにおけるイスラーム主義の軌跡——

水野 祐地*

MIUMI and Anti-Liberalism: A Trajectory of Islamism
during the Democratic Consolidation Era in Indonesia

MIZUNO Yuji

This paper highlights the development of an Islamist organization known as the Majelis Intelktual & Ulama Muda Indonesia (MIUMI), which translates to the Council of Young Intellectual & Ulama in Indonesia. MIUMI and its members played a significant behind-the-scenes role during several past Islamist political mobilizations, culminating in the 2016–17 mass protest known as Aksi Bela Islam or 212 Movement. However, the organization has rarely been analyzed by observers, as it has been overshadowed by other Islamist organizations such as the Islamic Defenders Front (FPI) and Hizbut Tahrir Indonesia (HTI). The genealogy of MIUMI shows that the organization has capitalized on strong anti-liberal sentiments systematically propagated by groups such as the Institute for the Study of Islamic Thought and Civilizations (INSISTS). Since the mid-2000s, anti-liberal sentiments have been a key aspect of what Martin van Bruinessen called a “conservative turn” of Islam in Indonesia. Through the issuance of 2005 Fatwa by the Indonesian Ulama Council (MUI) and an intellectual assault against Islam Liberal Network (JIL), anti-liberal sentiments have effectively built a foundation for the consolidation of Islamism in the past decade. By rallying against liberalism, ulama of MIUMI and intellectuals of INSISTS have managed to provide organizational, logistical, and intellectual means to unify Islamic organizations of various backgrounds. The effect has been witnessed on several occasions, including the 2012 #IndonesiaTanpaJIL rally, Parade Tauhid rallies since 2015, 2015 National Congress of MUI, and eventually the 212 Movement.

1. 序論

2016年から2017年のジャカルタ州知事選挙期間中、ジャカルタを拠点にした大規模なデモが連続的に発生した。このデモは主としてイスラーム主義的組織により組織かつ先導されたものであり、現職のジャカルタ州知事であったバスキ・プルナマを冒瀆罪で起訴するよう呼びかけた。バスキ・プルナマの華僑かつキリスト教徒というダブル・マイノリティとしての身分も相まって、イスラームを侮辱したとする彼に対する反発は幅広いムスリム人口の支持を得ることに成功した。一連のデモの中でも最大のものは2016年12月2日に行われたものであり、約70万人の参加者を集め、「212運動」と呼ばれるデモの呼称を生んだ。212運動は、現代インドネシアの歴史において、大衆動員に最も成功したデモの一つとして広く捉えられている [Bruinessen 2018]。

本稿では、この運動において主体的な役割を果たしたアクターの一つである MIUMI (インドネシア若年知識人・ウラマー評議会¹⁾) に焦点を当て、この運動が発生した系譜的分析を行う。212

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

1) インドネシア語 Majelis Intelktual dan Ulama Muda Indonesia, 英語 Indonesian Council of Young Intellectuals and Ulama.

運動における MIUMI のプレゼンスはあまり強調されてこなかったものの、彼らの活躍は GNPf-MUI (MUI ファトワー防衛のための国家運動²⁾) と呼ばれる本デモの組織委員会の形成に重要な役割を果たした。GNPF-MUI は、212 運動に参加した諸イスラーム主義運動の集合体である。本デモがその相当な動員規模と政治的影響力を誇った事実を鑑みると、このような集合体の形成が一夜にして成されたものではないことは容易に想像できる。先行研究において、212 運動が極めて異なる原点、主義主張、支持基盤、目標を持ったイスラーム主義運動で構成されていることがわかっており [IPAC 2018]、これらの異なるイスラーム主義運動が如何にして統一を成すことができたのか、その仕組を把握する意義は大きいと言える。

2. 212 運動と「宗教政治的アクター」

212 運動に対する分析は、これまで多くの学者により、異なる観点から行われてきた。その多くにおいて、「宗教政治的アクター」といえる存在が指摘されている。Keddie は、「宗教政治」を諸社会問題に対し抗議を行う重要な手段であると述べている。Keddie や Ufen、Hiariej の議論を元に、社会的課題に対し動員を行う際に有効な手段としての「宗教政治」的ナラティブと、それを持ってして政治的利権を獲得しようとする政治的集団もしくはアクターを宗教政治的アクターとして定義することができる [Keddie 1998; Ufen 2009: 322; Hiariej 2009; 2017]。

Fauzi や Kusman、Hadiz らは、212 運動がインドネシアにおける新たな形態としてのイスラーム的ポピュリズムであると指摘した [Fauzi 2016; Kusman 2016; Hadiz 2016]。Kusman と Hadiz によれば、212 運動はイスラームの指導者とオリガルヒ、またナショナリストの政治家らによるイスラーム的ドクトリンの政治的利用により生み出されたものだとされる。この文脈において、「冒涇罪」という言葉は、上記のアクターによるインドネシア政治操作の道具となる [Lindsey 2016]。ここでのイスラーム的指導者とは、世俗的政治家らと協働し宗教的用語を用いて政治的利権を追求しようとする政治的アクターであるといえ、「宗教政治的アクター」を例証するものである。同様に、Mietzner らは、Mecham によるイスラーム主義的動員に関する理論を踏まえた上で、「宗教政治的起業家」と呼ばれる、政治的鬱憤を用いて社会的動員を行うアクターの存在を 212 運動が起きる上での必要条件であったと述べている [Mietzner et al. 2018; Mecham 2017]。

IPAC の詳細な分析によると、212 運動における宗教政治的アクターは、主に三つの集団で構成されていることがわかっている [IPAC 2018]。これは、a) イスラーム防衛前線 (FPI) に代表されるイスラーム自警団、b) ヒズブッタハリール・インドネシア (HTI) やイスラーム・ウマット・フォーラム (FUI) に代表される汎イスラーム主義運動、c) そして MIUMI に代表されるサラフィ運動とモダニストの連合体である³⁾。これに加え、福祉正義党 (PKS) や国民信託党 (PAN)、ゲリンドラのようなイスラーム主義、国家主義かつ世俗主義的政治家らが政治的支持を声明した。これらの諸集団の連合体は、一般的な見方としては実用本位かつ一時的なものであり、バスキ・プルナマを冒涇罪で告発するという主たる目的のために形成されてきたとされている。しかしこれは、宗教政治的アクターの主体性やその動態を静的なものとして捉える見方として言える。このようなイスラーム主義的連合体を、インドネシアにおけるイスラーム主義運動による、変動する政治的環境への適応と進化の結果であると捉えることはできないだろうか。

2) インドネシア語 Gerakan Nasional Pengawal Fatwa-MUI, 英語 National Movement to Defend the MUI Fatwa.

3) ここでの「モダニスト」とは、インドネシアのイスラーム運動における潮流の一つを指しており、一般的な意味における「近代主義者」とは異なる。モダニストは、20 世紀初頭の近代主義イスラーム運動の影響を受け、ムハンマディーヤなどの改革主義組織を生み出した。

ベースとなる議論として、インドネシアにおけるイスラームの広範な「保守転回」の文脈が存在する。保守的イスラーム運動の主流化は、2000年代以降すでにインドネシアで起きつつあった。2000年代半ばには、Sidelが現代インドネシアにおける保守的イスラーム運動の台頭を、イスラーム化の新たな段階として位置付けている [Sidel 2006]。「保守転回」についての学術的言及は Fealy が初めて行った [Fealy 2007]。この間、リベラル的価値観を持つムハンマディーヤやナフダトゥル・ウラマー (NU) のウラマーに対する反発がより社会の広範に渡って見られるようになった [Bruinessen 2013; 2018]。

その一側面において、保守転回は真正性の高いイスラーム的教義として捉えられやすいグローバル・イスラームの流入によるものとされる [Roy 2004]。Chaplin は、212 運動は過去 20 年間に渡る政治また公共の場におけるグローバル・イスラームの台頭を象徴するものと主張している [Chaplin 2018]。Assyaukanie と Bruinessen は、この運動が 1980 年代からインドネシアで発展してきたワッハブ主義、アラブ的生活様式の普及に見られる「アラブ化」の延長線上にあるものとして捉えた [Assyaukanie 2017; Bruinessen 2018]。「保守転回」のもう一つの側面は、インドネシアにおける伝統的な宗教的アクターの権威低下がある。Burhani は、インドネシア最大級のイスラーム的市民社会組織である NU とムハンマディーヤから、ソーシャルメディアなどを用いて影響力を広めている「ポップ・ウスタズ」へと宗教的権威が移行しつつある状況が 212 運動の背景の一つとして存在していると主張した [Burhani 2016]。Ahnaf は、インドネシアにおける宗教的権威が移行しつつある状況を、公共空間をめぐる言説的な「戦い」として位置付けた [Ahnaf 2016]。宗教的権威が移行する状況の背後には、思想が普及する中での非公式かつ個人的なネットワークの重要性が増している状況があり、212 運動はインドネシアにおける公共圏が閉鎖性を増している状況をも示している [Berenschot 2017]。

212 運動において形成されたイスラーム主義的連合体を再検討する上では、上記のような「保守転回」の議論を踏まえる必要がある。212 運動の原点が「保守転回」の始まりにあると捉えることで、イスラーム主義的連合は、212 運動の出現より以前から発展してきた内在メカニズムとして評価することができる。インドネシアのイスラーム主義的宗教政治的アクターは、その発展過程において、どのような経路を経て政治的環境に適応しつつ影響力を増大させるべく進化してきたのだろうか。次節からは、反リベラリズム、「保守転回」、そして集大成となる 212 運動がどのような糸で結びつけることができるのかを分析する。

3. INSISTS と反リベラリズム

1970 年代から 1980 年代にかけて、インドネシアのイスラーム的眺望において支配的であったのはムクティ・アリ、ハールーン・ナスティオン、ジョン・エフェンディ、アハマド・ワヒブ、アブドゥルラフマン・ワヒド、ヌルホリス・マジドなどの知識人に代表されてきたリベラル・イスラーム的言説であった [Platzdasch 2005; Bachtiar 2017]。このリベラル・イスラーム的言説に挑戦する保守的なイスラーム政治思想は 1990 年代半ばから後半にかけてイスラーム言説空間にて影響力を見せるようになった。スハルト政権による権威主義的支配から民主主義体制への移行によって特徴づけられるレフォルマシー期間において、リベラル・イスラームとイスラーム主義ブロックの双方が、それぞれのイスラーム的教義の制度化を試みた [Barton 2010]。

リベラル・イスラームの政治思想の制度化が活発化していたのは 1990 年代半ばであり、若い NU やムハンマディーヤの活動家により多くの政治的コミュニティや機関が設立された。この例と

して、NU の知識人によりジョグジャカルタにて設立された LKiS (イスラーム・社会研究機関⁴⁾)、またムハンマディーヤの知識人により中部ジャワ北部のジェバラにて設立された FSAS (宗教・社会研究フォーラム⁵⁾)、デボックにて設立された Desantara、マランに設立された Resist (宗教・社会研究センター⁶⁾)、マカッサルに設立された LAPAR (人民の子擁護・教育機関⁷⁾)がある。しかし、これらの運動は、体系的な PR キャンペーンを実施する能力に欠如していたため、高い社会的共鳴を得ることはできなかった。

リベラル・イスラーム運動の新たな局面は、リベラリズム思想に触発された幾人かの知識人が、主に NU と提携しリベラル・イスラーム・ネットワーク⁸⁾ (JIL) と呼ばれる機関を設立した際に起きた。2001 年に設立された JIL は、組織の創始者の一人であるウリル・アブシャル・アブドラが、翌年にチャールズ・クルズマンのリベラル・イスラームに関する特集を大手『コンパス (*Kompas*)』紙にて組んだ際に、インドネシアの公共圏にて存在力を発揮するようになった。JIL の野心的な形でのリベラル・イスラーム思想の主張は、再興を見せつつあったイスラーム主義的諸運動による激しい批判を浴びたことで、ウリルのプレゼンスは一挙に国家レベルにまで持ち上げられた [Feener 2007: 210; Assyaukanie 2011: 259]。ウリルに対する批判を行った初期のグループは、前述の FPI に加えて、インドネシア・ウマツト・ウラマ・フォーラム (FUUI)、ラスカール・ジハード (LJ)、インドネシア・ムジャヒディン評議会 (MMI)、正義党 (PK、後の福祉正義党)、そしてインドネシア・イスラーム・ダアワ評議会 (DDII) があった [Muzakki 2005]。

DDII に関しては、Media Dakwah (MD) と呼ばれるメディアプラットフォームを通して、1970 年代以来、リベラル・イスラーム思想を批判し続けてきた歴史がある。レフォルマシー期においては、MD はハルトノ・アハマド・ジャイズにより率いられ、JIL の知識人が持つ思想や彼らの活動を批判することに集中した [Muzakki 2005: 188]。しかし、MD の主張では、JIL はグローバル化の手先として、インドネシアのイスラームの瓦解を目指す動きであると捉えられた [Muzakki 2005; Munjid 2009]。

このように、MD のリベラル・イスラーム批判は、ポレミックが先導し陰謀論的思考に陥ることが多く、リベラル・イスラームに対するアカデミックな批判を行う能力には欠けていた。DDII が草の根レベルでのダアワ運動を主たる活動とするものであったのに対し、反リベラリズムの知的活動と言説形成について特化する形で、2003 年に INSISTS (イスラーム思想・諸文明研究機関⁹⁾) という組織がジャカルタにて設立された。INSISTS は、マレーシアにある ISTAC (イスラーム思想・文明国際機関) にて研究を行っていた知識人の内、主に東ジャワのゴントルにある近代主義的プラサントレン (イスラーム寄宿舎) と DDII の知識人らにより設立されたものである。主たる創設メンバーには、ハミド・ファハミ・ザルカシ (ゴントル)、アディアン・フサイニ (DDII)、アニス・マリク・トハ (NU)、ウギ・スハルト (DDII)、ヘンリ・シヨラフッディン (ゴントル)、シヤムスッディン・アリフ、アドニン・アルマス (いずれもゴントルの卒業生であり、DDII からの代表団として ISTAC に派遣された) がいる。彼らは主にマレーシアのムスリム知識人であつ ISTAC の設立者であったサイイド・ナギブ・アル=アッタースの「知のイスラーム化」思想の影響を受けている。しか

4) インドネシア語 Lembaga Kajian Islam dan Sosial.

5) インドネシア語 Forum Studi Agama dan Sosial, 英語 Forum for Religious and Social Studies.

6) 英語 Center of Religious and Social Studies.

7) インドネシア語 Lembaga Advokasi dan Pendidikan Anak Rakyat.

8) インドネシア語 Jaringan Islam Liberal, 英語 Liberal Islam Network.

9) 英語 Institute for the Study of Islamic Thought and Civilizations, アラビア語 معهد دراسات الفكر الإسلامي والحضارات.

し、INSISTSの知的活動は、インドネシアにおけるイスラーム化促進の第一段階として、インドネシア社会にて制度的基盤を確立し、また社会的規範の形成力を持っているとされた多元主義のようなリベラリズム的価値観、また世俗主義の影響を排除することを訴え、反リベラリズムにそのエネルギーを集中させた¹⁰⁾。この活動は、主にJILに対する反発を持って始動され、複数の著作、記事の執筆や様々な大学でのワークショップの開催などにより広められていった。

INSISTSは、2000年台半ばに発令された反リベラリズムに関する諸ファトワの制定に影響を与えたとされる。ムハンマディーヤでは、反リベラリズムファトワの発令後、INSISTSの主要メンバーであるアディアン・フサイニとアドニン・アルマスが組織の中央執行委員会に任命されている[Bachtiar 2017: 169]。また、2005年にはインドネシア・ウラマー評議会(MUI)により「宗教的リベラリズム、多元主義、世俗主義」をハラームとして禁止するファトワが発令されたが、アディアン・フサイニが2000年よりMUIのメンバーに選定されており、「リベラリズム、多元主義、世俗主義」を「SiPiLis」としてまとめて敵対視する考え方を、INSISTSを通して普及させてきた。このファトワの発令は、民主化以後のインドネシアにて保守的なイスラーム思想が制度化された最も初期の事例の一つであり、このファトワ以後、MUIによるイスラーム主義組織のより包括的な取り込みと、リベラル・イスラーム思想家とされる知識人の排除が本格的に行われるようになった[Ichwan 2013; Bachtiar 2017]¹¹⁾。

INSISTSは更に、リベラル・イスラームに対抗する知的活動の一貫として40の著作、22の記事、70以上の新聞特集を組んだ。特に、アディアン・フサイニを通して、ムスリム系新聞社の最大手とされる『レプブリカ(Republika)』紙にて現在に至るまで特集を組んでいる。また、主要メンバーが諸大学における指導的地位を確立しており、アニス・マリク・トハはスマランにあるスルタン・アゲン・イスラーム大学の学長を、ハミド・ファハミ・ザルカシはゴントルにあるダルサラーム大学の学長を、アディアン・フサイニはボゴールにあるイブヌ・ハルドゥーン大学の大学院教育過程での所長を、またニルワン・シャフリン・マヌルンは同じくイブヌ・ハルドゥーン大学の副学長を努めた経歴がある。INSISTSが主催したワークショップやレクチャーはインドネシア各地の大学で開かれており、インドネシア大学中東研究センター、スラカルタ・ムハンマディーヤ大学、ダルサラーム大学、アズ・ザフラ大学、スラバヤ工科大学などがその例にあたる[Bachtiar 2017]。

ゴントルのプサントレンとISTACのつながりを通して、INSISTSはインドネシア各地にイスラーム主義的な知的定着化を目標とする研究機関の設立を促しており、その例として、スラバヤを拠点とするINPAS(イスラーム思想・文明機関¹²⁾)、バンドンを拠点とするPIMPIN(イスラーム思想・人材開発機関¹³⁾)、スラカルタにPSPI(イスラーム文明調査センター¹⁴⁾)、ジョグジャカルタにアダブ・インスティテュート、デボックにDISC(デボックイスラーム研究サークル¹⁵⁾)、ジャ

10) リベラリズムのような西洋由来の思想がイスラーム文明に対する思想的侵略を行っているとする考え方は、*ghazwul fikri*(思想的侵略)と呼ばれ、中東では70年代から、インドネシアでは80年代から考え方が流布されるようになった。初期のINSISTSは*ghazwul fikri*を言及してはいないものの、ポスト近代主義的な相対化を元に、この考え方に極めて近い世界観から主張を行っている。

11) 2005年のファトワ発令以後MUI中央理事会から追放された進歩主義的ムスリム知識人にはマスダル・F・マステイとシティ・ムスダ・ムリアがいる[Ichwan 2013]。

12) インドネシア語 *Institute Pemikiran dan Peradaban Islam*, 英語 *Institute of Islamic Thought and Civilization*.

13) インドネシア語 *Institute Pemikiran Islam dan Pembinaan Insan*, 英語 *Institute of Islamic Thought and Human Resources Development*.

14) インドネシア語 *Pusat Studi Peradaban Islam*, 英語 *Research Center for Islamic Civilizations*.

15) 英語 *Depok Islamic Study Circle*.

カルタに CGS (ジェンダースタディセンター)¹⁶⁾、メダンに ISTAID (ダアワのためのイスラーム思想・情報)¹⁷⁾ が存在する [Bachtiar 2017]。加えて、INSISTS メンバーは知的活動にとどまらず、政治的影響力の行使や社会的動員を行う能力を持った組織として、2012 年より MIUMI を始動させ、また後述する Indonesia Tanpa JIL 運動に対し多大な知的支援を行った。この MIUMI を INSISTS の知的活動をブレンとする政治組織を捉えることで、MIUMI の活動に関する洞察を得ることができる。

4. MIUMI と保守的イスラーム諸運動の統一

INSISTS に触発された研究機関のほとんどは、知識人層の間での議論空間が主な活動領域であった。よって、インドネシア社会のムスリム人口により広く影響を与えることができる組織を設立する必要性を促した。インドネシアのムスリム社会における市民社会組織の様相は大きく分裂している。いわゆる伝統主義のブロックは NU が支配的であるが、保守的イスラーム運動のブロックは、ムハンマディーヤやベルシス、ヒダヤトゥッラーに代表される近代主義、グローバル・イスラームの影響を受けた DDII (イスラーム世界連盟、ムスリム同胞団) やワフダ・イスラミーヤ (サラフィ運動) と極めて雑多である。反リベラリズムから始まったインドネシアのイスラーム主義運動の影響力拡大に向けては、このような組織的および派閥的な分裂を克服する必要がある。

その結果、2012 年に MIUMI が設立された。MIUMI の創設メンバーは、ハミド・ファハミ・ザルカシヤアディアン・フサイニ、アドニン・アルマス、シャムスッディン・アリフ、ウギ・スハルトなどの INSISTS の創設メンバーに加えて、パハティアル・ナシール (AQL イスラームセンター、元ムハンマディーヤ)、ザイトウン・ラスミン (ワフダ・イスラミーヤ)、ジェジェ・ザイヌッディン (ベルシス)、ファリド・オクバ (アル=イスラーム財団)、ファドラン・ガマラタン (アル=ファテフ・カーファ財団) と、インドネシアの保守イスラーム潮流の様々な組織の若いウラマーを含んでいる。彼らは、組織の設立に向けた会合を幾度か開いた後、2012 年 2 月 28 日にジャカルタのグランド・サヒド・ジャヤホテルで正式に発足した。就任式には、汚職撲滅委員会 (KPK) のバンバン・ウイジョヤント、憲法裁判所のマフッド MD、元ムハンマディーヤ理事長のディン・シャムスッディン、またホルル・リドワンを含む MUI メンバーなどの重要人物が出席した [Bachtiar 2017]。

MIUMI は、インドネシアを拠点とするさまざまなムスリム団体のウラマーや知識人で緩やかに構成される組織である。他の市民社会組織の多くとは異なり、「オルマス」の形態を取らず、大衆レベルには開かれていない。MIUMI の会員は、組織的活動やイスラーム的教義の方向性を監督し指導する中心的なメンバー¹⁸⁾ と、説教ツアーにて主に登場するその他のよりゆるやかなメンバーで構成されている。本部はジャカルタのテベットにあり、MIUMI の実質的なフロントマンである

16) 英語 Center for Gender Studies.

17) 英語 Islamic Thought and Information for Dakwah.

18) MIUMI の中心メンバーは、インドネシアの保守的イスラームのスペクトラムを網羅している。ムハンマディーヤをバックグラウンドに持つメンバーには、パハティアル・ナシール (本部)、ファハミ・サリム (ジャカルタ)、ファトフラフマン・カマル (ジョグジャカルタ)、オクリサル・エカ・プトラ (ジョグジャカルタ)、アユーブ・ハンドリハディ (タラカン) がいる。ワフダ・イスラミーヤのバックグラウンドを持つメンバーには、ザイトウン・ラスミン (本部)、リドワン・ハミディ (ジョグジャカルタ)、ベニー・アブドゥルラフマン (ジョグジャカルタ)、ラフマト・アブドゥル・ラフマン (南スラウェシ) がいる。その他の組織に所属する中心メンバーには、アフマド・ザイン・アンナジャ (本部、DDII)、ジェジェ・ザイヌッディン (本部、ベルシス)、ティアル・アンワル・パハティアル (西ジャワ、ベルシス)、イドルス・ラムリ (本部、NU)、シャキル・シャフィー (ジョグジャカルタ、ヒダヤトゥッラー) がいる。

バハティール・ナシールが設立したダアワ組織である AQL イスラームセンター本部に隣接する。この他、地元で知られるウラマーによって運営される十数個の地方支部が存在する。最も活発な地域支部としては、ジャカルタ、ジョグジャカルタ、プカシ、マラン、スラカルタ、東ジャワ、南スラウェシ、メダンがある。

メンバーの経歴はまた、その中流階級の背景を示しており、これは 212 運動の主たる構成組織の一つであるイスラーム自警団組織 FPI とは異なるものである。FPI のリーダーシップとその支持基盤は、その多くがジャカルタの都市部貧困層を出自とする [IPAC 2018]。一方、MIUMI 内のコアメンバーの間では、インドネシアで最高の教育水準を誇るイスラーム教育機関とされるゴントル・プサントレン出身のメンバーが高い存在感を持つ¹⁹⁾。MIUMI の理事長を務めるハミド・ファハミ・ザルカシはゴントル・プサントレンの創設者であるイマーム・ザルカシの孫にあたる。MIUMI メンバーをつなぐもう一つの重要な教育機関はサウジアラビアのマディーナにあるイスラーム大学である²⁰⁾。全体的に、ゴントル卒業生が MIUMI の近代主義的な潮流を、またマディーナの卒業生がハラキと呼ばれる活動主義的サラフィ運動の潮流の形成に貢献している。

MIUMI が持つ主たる組織的機能は政治的ロビー活動として捉えることができる。MIUMI はファトワーを発令する能力を保持しているが、インドネシア社会においてはこの機能は MUI によってすでに十分な役割を果たされている。MIUMI は当初から MUI との競合関係を作るつもりはなく、初期の段階からインドネシアのムスリム社会における MUI の権威を認めている。MIUMI の発足時の声明においては、MUI との実質的な分業について言及している。分業の中では、MIUMI は MUI を「支援する」という意図を示している。この援助は、政治的かつ知的レベルにて行われるものとされる。MUI はインドネシアを拠点とするすべての代表的なイスラーム組織のウラマーによって形成される委員会であるため、彼らの意思決定プロセスにおいては、必然的に異なる宗教志向を持つウラマーが混在している。メンバー間のこのような宗教的方向性の違いは、MUI をイスラームの言説の競合の場にし得るものである。ウラマーのイデオロギー的統一が成されることは、MUI 決議の結果を揺さぶる可能性を持ち得る。このような背景を踏まえ、MIUMI の主張する MUI に対する政治的かつ知的支援とは、異なる背景を持つウラマーの意志を統合することに始まると予測できる。MIUMI が統合を試みるウラマーのスペクトラムは、NU の主流部には到達していないものの、近代主義からムスリム同胞団系列、サラフィ運動に至るまでの保守的ウラマーの統一を行うことに成功している。ウラマーのイデオロギー的統合を通したロビー活動の場は、MUI 内での派閥抗争に限定されない。後述するように、MIUMI はその急速な発展の過程において、路上の政治のあり方にも影響を与えることに成功してきた²¹⁾。

政治的ロビー活動を促進するためのウラマーの統合は、MIUMI の系譜における INSISTS の背

19) バハティール・ナシール、アドニン・アルマス、アセップ・ソバリ、ヘンリ・ショラフッディン、およびファトワラフマン・カマルが含まれる。

20) マディーナの卒業生には、バハティール・ナシール、ザイトウン・ラスミ、アフマド・ザイン・アンナジャ、ファトワラフマン・カマル、リドワン・ハミディが含まれる。

21) 政治的ロビーとしての役割以外に、MIUMI は週単位で開かれる公開勉強会や全国各地での説教ツアー(タブリグ・アクバル)も行っている。公開勉強会での講演内容はしばしば家庭やジェンダーに関連する問題に焦点を当てることが多く、女性の観客を引き付ける傾向がある。他方、タブリグ・アクバルにおいては、イスラームとナショナリズムとの互換性など、政治問題についても言及することが多い。これは、異なるオーディエンスごとに適当なイスラームの問題についての話題を提供することができる汎用性があることを示している。しかし、このような知的包括性と対象的に、オンライン上での公共空間における存在感は極めて薄いものがある。組織としての MIUMI がオンライン上の支持基盤をほとんど持たないだけでなく、フロントマンのバハティール・ナシールも、アブドゥル・ソマドやフェリックス・シアウなど高いオンライン上でのプレゼンスを持つウスタズと比較して、比較的少数のフォロワーしか持たない。これは、FPI などの組織が得意とする直接的な大衆動員は、より高度なレベルにおける政治的ロビー活動と比較して、MIUMI にとってそれほど優先的ではないことを意味している。

景から生じているものである。リベラル・イスラーム思想への知的対抗を目指した INSISTS の活動目標は、近代主義からサラフィ運動に至るまでの幅広いイスラーム運動の共鳴を得ることができるものである。INSISTS のメンバーが MIUMI のリーダーシップを務めている点からも、MIUMI は知的レベルで INSISTS をほぼ直接引き継いでいる。MIUMI は、リベラリズムと世俗主義への対抗という目標を最小公倍数として、以前は体系的な動員またはロビー活動を可能にする手段がなかった雑多な保守的イスラーム組織のメンバーに対するアクセス・チャンネルを提供した。最もユニークなケースは、「NU 直系派 (NU Garis Lurus)」して知られる NU 内部の保守的な分派である。NU 直系派に共鳴するメンバーは福祉正義党や FPI を支持する傾向があり、主流派の NU メンバーがより多元主義や世俗主義的価値観と互換的であるのに対し、NU 直系派はそのような思想に激しい反発を示す。NU 直系派を出自とする MIUMI の主要メンバーには、東ジャワのパスルアンにあるポンドック・プサントレン・シドギリの卒業生であるイドルス・ラムリと、マドゥラにあるポンドック・プサントレン・アル＝アミーンの学長であるアハマド・ファウジ・ティジャーニが含まれる。両プサントレンは共に NU 直系派の牙城として認知されている。この内、ラムリは NU 幹部の中でも影響力のある人物で、2015 年の NU 全国大会において直系派の発足を公式に宣言した [Arifianto 2017]。NU 直系派は巨大な NU の組織内においては決して主流ではないが、マドゥラやバンテンなどの地域における NU 幹部の間で強い影響力を保持している。そのような NU 一派とワフダ・イスラミーヤのようなサラフィ組織との間の協働関係は、理論上もっともかもしれないが、成立させるためには洗練された組織的チャンネルを必要とする。このチャンネルは MIUMI の設立以前には存在していなかった。MIUMI の設立によって、異なる組織に所属するメンバー間でイスラーム主義的政治的動員に向けて「クロスオーバー」を行う道が開かれたと言える。

この組織構造が持つ性質上、MIUMI が指導する政治・社会的動員は、ムスリム社会の保守層が彼らの宗教を守る必要性を感じた時という、極めて特定のシナリオにおいて最大効率を発揮する。このようなシナリオは、MIUMI のメンバーに対し、多様なムスリム社会を単一の集合体として結びつけ、目前の敵と戦うべく呼びかける働きをなす。組織や潮流によって分裂していない単一「ウンマ」へのムスリム社会の統一は、インドネシアで実現されたことは一度もないが、それでもなお近代主義志向のムスリムの間では理念として認知され続けている。一つの敵に対して団結するという呼びかけは、待望の宗教的理念の実現に向けた呼びかけであり、宗教的理念を達成する共鳴的な行為であると同時に、政治的動員のために極めて有効な戦略として機能し得る。このシナリオにおいて、MIUMI はさまざまな異なる所属を持つウラマーのための知的プラットフォームを提供する。このプラットフォームにおいて成された知的コンセンサスは、MIUMI のウラマーが属するそれぞれの組織に伝播される。反動性で特徴づけられる MIUMI の組織構造は、コンセンサス形成において長い時間を必要としない。INSISTS の豊富な知的情報源を活用することで、反リベラリズム、反世俗主義、そして反宗教的多元主義に関わる問題に対する知的合理化は更に容易となる。

MIUMI の反動的な性質は、しかしながら、体系的に宗教的イデオロギーを推し進める段階になると弱点をさらけ出す。多種多様なムスリム組織で構成される MIUMI が能動的に持つ宗教的イデオロギーは曖昧であり、特定することが難しい。これは、212 運動のようなデモのモーメントが沈静化してからの MIUMI の影響力の相対的な低下にもつながり得る。MIUMI 内部においては、本来アル＝アッタースの新伝統主義的起源を持つ INSISTS の思想とは直接的な関係を持たないサラフィ運動の影響力が高まっており、両者は世俗的制度や多元主義的価値観の瓦解を通じた社会のイスラーム化を達成する他は、共通の理念を持たない。MIUMI にとっては、ロビー能力を高めるた

めにサラフィ運動の影響を取り込むことが不可欠であった。サラフィ運動のメンバーが参加したことは、ジョグジャカルタやスラウェシを始めとする多くの地域での MIUMI の拡大に大きく貢献した。リドワン・ハマディとファトフラフマン・カマルが率いるジョグジャカルタ支部は、ジョグジャカルタにおけるサラフィ運動の拠点であるジョゴカリヤンモスクを活動のハブとしている。この支部においては、ゴントル・プサントレンの卒業生の存在感は INSISTS が存在するジャカルタと比べると低い。サラフィ運動を取り込むなどのような戦略は、SiPiLis の影響が排除された後のインドネシア社会を、どのような形または理念を持ってイスラーム化するのか、という困難な課題を MIUMI に突きつける結果となった。

5. 212 運動に至るまでのイスラーム主義的動員の諸事例

2000 年代後半からのムスリム社会と反リベラリズムを取り巻く展開は、INSISTS の反 SiPiLis 思想が異なるムスリム集団を統一する連合体を築き、212 運動で最高潮に達するまでの軌跡を示している。MIUMI 以前にも諸ムスリム組織が一時的に統合を行った事例はアンボン紛争のための連帯(2000 年)、イスラエルのパレスチナとレバノンへの侵攻への抗議集会(2006 年)、反アハマディーヤ集会(2009 年)など散発的にあった。しかし、INSISTS や MIUMI のアクターは、より組織化され持続的な影響を及ぼすことができる連合体を形成することに成功した。

2012 年の MIUMI 形成以来、INSISTS と MIUMI は様々なイスラーム主義的運動の確立に積極的に参加し、活性化させてきた。その好例は、2012 年の Indonesia Tanpa JIL (JIL のないインドネシア) 運動、2015 年のパラデ・タウヒード、2015 年の MUI 全国大会、そして 2016 年の GNPFI-MUI の設立である。一見すると、これらのイベントは長い「保守転回」の発展段階における個別の現象のように見える。しかし、これらの事件には二つの共通点があることがわかる。第一に、保守的ムスリム社会のセンシビリティを害すると考えられたリベラルの価値観に基づく運動への反動である。第二に、リベラリズムという共通の敵を定めたことで、異なる派閥や宗教的方向性を克服しイスラーム主義組織らが連合体を形成するための増強段階として機能した。

Indonesia Tanpa JIL 運動は、2012 年 3 月 9 日に行われた大衆集会から始まったポピュリスト的反リベラル運動である。この運動は、2012 年 2 月 14 日の #IndonesiaTanpaFPI (FPI のないインドネシア) 集会と呼ばれた運動に対する反対抗議行動であった。#IndonesiaTanpaFPI 集会は、FPI によるアハマディーヤコミュニティに対する暴力事件を批判し、ジャカルタにて数十人ほどの進歩主義、アハマディーヤ、フェミニスト、LGBT 賛成派の群衆を集めた。この集会が訴えたスローガンは、ツイッターのようなソーシャルメディアを通して拡散させられ、一部の保守的なムスリムユーザーによって、JIL の影響力の高まりとして捉えられた。この集会に対する反対抗議行動がすぐに形成され、#IndonesiaTanpaJIL というハッシュタグがソーシャルメディア上で流布された。#IndonesiaTanpaJIL ハッシュタグはすぐに元の反 FPI キャンペーンを圧倒し、バンドン、ボゴール、マカッサルを含む地方都市で同様の集会を促した [Ardhianto 2018]。

Indonesia Tanpa JIL 運動の参謀の一人はアクマル・シャフリルである。彼は、イブヌ・ハルドゥーン大学にてアディアン・フサイニの下でイスラーム教育とイスラーム思想研究を専攻した経歴を持つ。卒後彼は INSISTS に所属し、研究者となる傍ら、活発な著作活動を行った。彼の著書 *Islam Liberal 101* は Indonesia Tanpa JIL 運動の活動家にとってバイブルとして考えられている。本書には、イスラーム主義的理念を実行する上での第一歩として反リベラリズムおよび世俗的価値観の制度的な瓦解を目指す INSISTS の思想が反映されている。Indonesia Tanpa JIL 運動は、その明快

な運動目的も相まって、様々な組織的背景を持つ人々を引き寄せた。これには FPI、ヒズブッタハリール、タルビーヤ運動、サラフィ運動だけでなく、イスラーム的活動の背景を持たない一般人をも活動に引き込んだ。#IndonesiaTanpaJIL がツイッターのトレンドハッシュタグとなった後、数多くの歌手やソーシャルメディア上の著名人によりハッシュタグの流布と支援アカウントの作成がなされた。2018 年に至るまで、Indonesia Tanpa JIL 運動はジャワ、西ヌサ・トゥンガラ、スラウェシを含む全国に 21 の支部を都市や大学に設立した。その多くは、INSISTS のメンバーによる支持を得つつゴントルの卒業生ネットワークによって維持されている。

2015 年には、MIUMI の社会的認知度を高める上での強力な推進剤となるイベントが起きた。これは、2015 年 4 月 29 日にスラカルタでキリスト教コミュニティにより開催された Kirab Salib (十字架カーニバル) 集会である。この集会は復活祭に合わせて行われ、1,200 人の参加者が数百の十字架を担ぎスラカルタ市内を行進した。この行進は、スラカルタ市シャリーア評議会 (DSKS) の理事長であり MIUMI のスラカルタ支部の代表でもあるマイヌディッター・パスリを憤慨させた。パスリは、パラード・タウヒードと呼ばれる対抗集会を Kirab Salib 集会の一ヶ月後に主催した。パラード・タウヒードにはおよそ 10,000 人の参加者が、多数のイスラーム運動の支持のもと集められ、タウヒードが記された旗を掲げデモを行った。参加者の出自は、ムハンマディーヤ、NU、ベルシス、アル＝クルアン・タフシール評議会 (MTA) などの主流組織から、諸イスラーム系政党、FPI やラスカル・ウマツ・イスラム (LUIS)、ラスカル・ヒズブラ・スナン・ボナン、若年カーバ運動²²⁾ (GPK) などの自警団、更に HTI、MMI、ジャマーア・アンシャルット・タウヒード (JAT)、ジャマーア・アンショル・シャリーア (JAS) などの急進派組織に至るまで、インドネシアのイスラーム・スペクトラムのほぼ全範囲に及んだ。以後、FPI と MIUMI 幹部によりパラード・タウヒード・インドネシアと呼ばれる全国レベルのパレードが組織され、ジョグジャカルタ (2015 年、2016 年)、メダン (2017 年、2018 年)、パダン (2015 年、2018 年) など、さまざまな地域で集会が行われた。このパラード・タウヒードの展開は、特定のターゲットの存在、FPI と MIUMI の指導力、雑多なイスラーム主義運動の参加、全国展開といった点で、212 運動と多くの共通点を持った運動であり、パラード・タウヒードで築かれた動員インフラは 212 運動にて広く応用される結果となった。

同時期から、MIUMI メンバーは MUI の中央理事会にてプレゼンスを高めるようになった。ジャカルタにある MUI の中央理事会には、ムスリムコミュニティ全体に渡る問題を議論する機会を設けるべく、MUI に代表を派遣する権利を持たない組織を招待する公開フォーラムを開催している。主要なフォーラムには、インドネシア・イスラム・ウマツ会議²³⁾ (KUII) およびウクワー・イスラミーヤ・フォーラムがある。これらのフォーラムは、年次大会が開催される直前に行われ、非主流の組織が主流の組織と対面できる貴重な機会であるため、異なる思想潮流を持つムスリム組織同士のダイアログの場として機能している。2010 年の第 5 回 KUII 大会までは、MUI は「物議をかもしている」とされた組織を招かないという姿勢をとっていたが、これはムスリムコミュニティからの激しい反発を受け続けてきた。これにより、2015 年の KUII 大会ではこの方針が改められた。2015 年 2 月 8 日から 11 日にかけてジョグジャカルタで開催された第 6 回 KUII 大会では、ワフダ・イスラミーヤ、MMI、HTI、FUI などの保守的または急進派イスラーム組織が多数招かれ、セッションにおいてはバハティアル・ナシールやザイトウン・ラスミンなどの MIUMI メンバーが中心的役割を果たした [Ichwan 2016: 92–94]。

22) インドネシア語 Gerakan Pemuda Ka'bah, 英語 Young Ka'bah Movement.

23) インドネシア語 Kongress Umat Islam Indonesia.

第6回 KUII 大会におけるイスラーム主義組織の優越性はその後の全国大会にて直接引き継がれた。2015年8月25日の全国大会では、2015年から2020年の理事会メンバーが決定された。その中には、MIUMIのフロントマン2人であるラスミンとナシールが、MUIの副書記長および諮問評議会の副書記長としてそれぞれ就任した。また、ダクワ委員会およびコミュニティ開発委員会にてさらに2人のMIUMIのコアメンバー、アドニン・アルマスとファフミ・サリムが加わった。彼らの研究委員会のメンバーも兼ねており、この委員会によって行われる仕事の中には「異端」とされるコミュニティに関する議論が含まれる。委員会内のイスラーム主義的メンバーは2015年度全国大会の場を利用して反シーア派ファトワを発令するために努力したが、これは失敗に終わった。いづれにしても、近代主義・サラフィ運動の影響力をMUI内にて統合させ増強させる活動は、これまででないレベルの成果を成し遂げ、MUI内におけるイスラーム主義運動の影響力を固める結果となった [Ichwan 2016: 92–94]。

ジャカルタ州知事選挙を控えた2016年6月10日に、MIUMIはジャカルタ・プラヤン評議会²⁴⁾(MPJ)を発足させた。これは、州知事選挙に備えてイスラーム主義的要望を汲み取れる知事候補者を選出する連合を築くための評議会として意図された。評議会は、2017年のジャカルタ州知事選挙にて代替候補となり得る7人のムスリム候補者を指名し支持を表明した。MPJの発足は、FPIに率いられたアホック²⁵⁾拒絶のための大衆運動²⁶⁾(GMJ)やDDIIに率いられたイスラーム・オルマス評議会²⁷⁾(MOI)のような、同様の評議会の結成を促した。これらの評議会は、2016年9月14日にはMudzakarah Ulama dan Tokoh Nasional、2016年9月18日にはRisalah Istiqlal (Istiqlal Manifesto)と、ジャカルタでイスラーム主義に呼応する知事の選定を確実にするための共同イベントを開催した [IPAC 2018]。

その後、バスキ・プルナマが2016年9月にクルアーンのアル=マーイダ章51節への言及を行ったことが冒涇罪として社会的に拡散させられた。この事件を契機に、MPJ、GMJ、MOIのような評議会がベースとなり諸イスラーム組織や運動を取り込んでいく形で拡大し、GNPF-MUIへと進化した。当初、GNPF-MUIはバスキ・プルナマのアル=マーイダ章51節への言及を冒涇に値するとしたMUIによるファトワを護衛するという目的の元形成された。しかし、バスキ・プルナマの告訴に向けた警察の反応が遅いことを口実に、GNPF-MUIは抗議デモを企画するに至った。MUIの名前を飾った形での抗議運動が形成されるのを可能にしたのは、前年のMUI全国大会を通してイスラーム主義組織がプレゼンスを増し、内部の勢力均衡における優位性を確立したからであるとされる [Ichwan 2016: 92–94]。一連のデモは、「イスラームを守る活動」(Aksi Bela Islam)と総称された。2016年12月2日に行われた最大のデモの日付に因んで、「212運動」という呼び名もつけられた。最初の運動は2016年10月14日に行われた抗議行動であり、数千人の参加者を集めた。二度目の抗議行動は2016年11月4日に数万人の参加者により行われた。運動を収縮させ暴力を回避することを望んだ警察は、バスキ・プルナマを冒涇罪の容疑者として認定した。しかし、GNPF-MUIは、プルナマの没落を確実にする機会を見て、そして12月2日の第3回の集会を結集した。約70万人の抗議運動により首都中部が機能停止に陥ったことを受け、政府はプルナマの裁判を直ちに開始すると発表した。以後、抗議者らは月一度のペースで、州知事選挙が終わるまでデモを

24) インドネシア語 Majelis Pelayan Jakarta.

25) 「アホック」とは、当時現職知事だったバスキ・プルナマのニックネーム。

26) インドネシア語 Gerakan Masyarakat Tolak Ahok.

27) インドネシア語 Majelis Ormas Islam.

行った。選挙終了後、かねてから MUI 内部でのイスラーム主義勢力の優位性に反抗してきたメンバーの影響を受け、GNPF-MUI は解散させられた。以後、運動は GNPF-U (ウラマーファトワー防衛のための国家運動²⁸⁾) と名称変更した。この運動は 2019 年度の大統領選挙の結果にも影響を与えるべく勢いを維持しようと尽力し、毎年 12 月 2 日に「再結集」イベントを開催してきた [IPAC 2018: 2]。

6. 結論

諸イスラーム主義運動の統一が起きた仕組みを理解する上では、212 運動の発生に至るまでの歴史的發展を分析することが肝要である。その点で、MIUMI の分析は重要な視点を提供してくれる。これは、MIUMI という組織が、それまで体系的に行われてこなかったイスラーム主義連合の形成を可能にする組織的構造と思想的背景を持っていたことによる。MIUMI の元で活躍するウラマーらが、リベラリズムや宗教的多元主義の排除という社会のイスラーム化に向けた特定の戦略を持っていたという点からも、彼らのインドネシア・イスラームの「保守転回」における役割はこれまで評価されてきたよりも大きなものがあると予想できる。MIUMI に所属するウラマーや彼らの活動は、現代インドネシアのイスラームが保守化する流れについて、新たな視点をも提供してくれる。これは、イスラーム化をイスラーム的知識の普及とグローバル化に伴う直線的なプロセスであると理解する見方に挑戦するものである。MIUMI の場合、その成功はリベラル・イスラーム運動に対する反発という点に依拠している。これらの事例から、「保守転回」の本質がどこにあるのか、また民主主義が定着しつつあるインドネシアにおける進歩主義的諸運動の有効性について問い直すこともできるのではないだろうか。

<参考文献>

- Ahnaf, M. I. 2016. “‘Aksi Bela Islam,’ Akankah Mengubah Lanskap Muslim Indonesia?,” *MAARIF* 11(2), pp.30–42.
- Ardhianto, I. 2018. “Contemporary Islamic Movement, Popular Culture and Public Sphere in Indonesia: The #IndonesiaTanpaJIL Movement,” *Archipel* 95, pp.151–171.
- Arifianto, A. R. 2017. “Politics, Plurality and Inter-Group Relations in Indonesia – *Islam Nusantara* and Its Critics: The Rise of NU’s Young Clerics,” *RSIS Commentaries* 17-018.
- Assyaukanie, L. 2011. *Ideologi Islam dan Utopia: Tiga Model Negara Demokrasi di Indonesia*. Jakarta: Freedom Institute.
- . 2017. “Unholy Alliance: Ultra-conservatism and Political Pragmatism in Indonesia,” <<https://thcasean.org/read/articles/327/Unholy-Alliance-Ultra-Conservatism-and-Political-Pragmatism-in-Indonesia>> (最終閲覧日 2019 年 8 月 1 日).
- Bachtiar, T. W. 2017. *Pertarungan Pemikiran Islam di Indonesia: Kritik-kritik terhadap Islam Liberal dari H.M Rasjidi sampai INSISTS*. Jakarta: Pustaka Al-Kautsar.
- Barton, G. 2010. “Indonesia: Legitimacy, Secular Democracy, and Islam,” *Politics & Policy* 38(3), pp.471–496.
- Berenschot, W. 2017. “Ahok’s Defeats and Public Debate in Indonesia,” <<https://www.newmandala.org/ahoks-defeats-say-public-debate-indonesia/>> (最終閲覧日 2019 年 8 月 1 日).

28) インドネシア語 Gerakan Nasional Pengawal Fatwa-Ulama, 英語 National Movement to Defend the Ulama’s Fatwa.

- Bruinessen, M. V. 2013. *Contemporary Developments in Indonesian Islam: Explaining the "Conservative Turn"*. Singapore: ISEAS Publishing.
- . 2018. "Indonesian Muslims in a Globalising World: Westernisation, Arabisation, and Indigenising Responses," *RSIS Working Paper* 311.
- Burhani, A. N. 2016. "Aksi Bela Islam: Konservatisme dan Fragmentasi Otoritas Keagamaan," *MAARIF* 11(2), pp. 15–29.
- Chaplin, C. J. 2018. "Political Protests, Global Islam and National Activism: Deciphering the Motivations behind Indonesia's "Conservative Turn"," <<https://www.mei.edu/publications/political-protests-global-islam-and-national-activism-deciphering-motivations-behind>> (最終閲覧日 2019年8月1日).
- Fauzi, I. A. 2016. "Mobocracy? Counting the Cost of the Rallies to "Defend Islam"," <<https://indonesiaatmelbourne.unimelb.edu.au/mobocracy-counting-the-cost-of-the-rallies-to-defend-islam/>> (最終閲覧日 2019年8月1日).
- Fealy, G. 2007. "A Conservative Turn," <<https://www.insideindonesia.org/a-conservative-turn>> (最終閲覧日 2019年8月1日).
- Feener, M. R. 2007. *Muslim Legal Thought in Modern Indonesia*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Hadiz, V. R. 2016. *Islamic Populism in Indonesia and the Middle East*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Hiariej, E. 2009. "The Politics of Becoming Fundamentalist in the Age of Consumer Culture," Ph.D diss: Australian National University.
- Hiariej, E., F. de Jalong, D. Hasibuan, and A. D. Rahmawati. 2017. "Post-Fundamentalist Islamism and the Politics of Citizenship in Indonesia," in Eric Hiariej and Kristian Stokke (eds.), *Politics of Citizenship in Indonesia*, Jakarta: Yayasan Pustaka Obor Indonesia, pp. 305–338.
- Ichwan, M. N. 2013. "Towards a Puritanical Moderate Islam: The Majelis Ulama Indonesia and the Politics of Religious Orthodoxy," in Martin Van Bruinessen (ed.), *Contemporary Developments in Indonesian Islam: Explaining the "Conservative Turn"*, Singapore: ISEAS Publishing, pp. 60–104.
- . 2016. "MUI, Gerakan Islamis, dan Umat Mengambang," *MAARIF* 11(2), pp. 87–104.
- IPAC (Institute for Policy Analysis of Conflict). 2018. "After Ahok: The Islamist Agenda in Indonesia," *IPAC Report* 44.
- Keddie, N. R. 1998. "The New Religious Politics: Where, When, and Why do 'Fundamentalisms' Appear?," *Comparative Studies in Society and History* 40(4), pp. 696–723.
- Kusman, A. P. 2016. "Aksi Bela Islam, Populisme Konservatif dan Kekuasaan Oligarki," *MAARIF* 11(2), pp. 43–52.
- Lindsey, T. 2016. "Blasphemy Charge Reveals Real Fault Lines in Indonesian Democracy," <<https://www.theaustralian.com.au/commentary/blasphemy-charge-reveals-real-fault-lines-in-indonesia-democracy/news-story/d748c881028069a19d1459dc592d7213>> (最終閲覧日 2019年8月1日).
- Mecham, Q. 2017. *Institutional Origins of Islamist Political Mobilization*. New York: Cambridge University Press.

- Mietzner, M, B. Muhtadi, and R. Halida. 2018. "Entrepreneurs of Grievance Drivers and Effects of Indonesia's Islamist Mobilization," *Bijdragen tot de Taal-, Land- en Volkenkunde* 174, pp. 159–187.
- Munjid, A. 2009. "Militant and Liberal Islam: The Unwanted Twin Children of Modernization – An Indonesian Experience," *Journal of Indonesian Islam* 3(1), pp. 35–68.
- Muzakki, A. 2005. "Contestation within Contemporary Indonesian Islamic Thought: Liberalism and Anti-Liberalism," M. Phil diss: Australian National University.
- Platzdasch, B. W. 2005. "Religious Dogma, Pluralism and Pragmatism: Constitutional Islamism in Indonesian Politics (1998–2002)," MA diss: Australian National University.
- Roy, G. 2004. *Globalised Islam: The Search for a New Ummah*. London: Hurst.
- Sidel, J. T. 2006. *Riots, Pogroms, Jihad: Religious Violence in Indonesia*. Ithaca, NY: Cornell University Press.
- Ufen, A. 2009. "Mobilising Political Islam: Indonesia and Malaysia Compared," *Commonwealth & Comparative Politics* 47(3), pp. 308–333.